

(令和3年07月12日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

< 経済統計—基礎データ・2 (家計調査) >

少し遡りますが、今年5月18日に、家計調査報告(貯蓄・負債編)―2020年平均結果が発表されました。以前「年金以外に2000万円が必要」で大きな問題になりましたが、家計調査は、二人以上の世帯での調査報告が中心。なお、世帯区分構成比(2020年(平均)・(二人以上の世帯))では、勤労者世帯53.4%、個人営業などの世帯11.8%、無職世帯34.7%となっています。二人以上の世帯について、貯蓄現在高の平均は、1,791万円、貯蓄保有世帯の中央値は1,061万円。貯蓄ゼロを含めた中央値(参考値)は1,016万円となっています。下表・上段は、それを世帯主の年齢階級別にみたものです。50歳を過ぎてから、純貯蓄高が黒字に…。二人以上の世帯で貯蓄が増えるのは、一般には住宅ローンの返済を終えてからとなっています。

家計調査報告(貯蓄・負債編)

(世帯主年齢別・貯蓄額、二人以上の世帯)

(万円、%)

	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
貯蓄高	708	1,081	1,703	2,384	2,259
年間収入	660	786	869	592	441
貯蓄年収比(倍)	1.073	1.375	1.960	4.027	5.122
負債残高	1,244	1,231	699	242	86
(住宅・土地のための負債)	1,169	1,152	620	192	66
負債保有世帯の割合	58.2	66.6	56.5	27.6	12.5
純貯蓄額	▲536	▲150	1,004	2,142	2,173

(世帯主65歳以上、二人以上の無職世帯)

(万円、%)

	通貨性預金	定期性預金	生命保険など	有価証券	金融機関外
貯蓄高(平均2,292百万円)	618	920	397	348	9
貯蓄高に占める割合	27.0	40.1	17.3	15.2	0.4

(総務省・家計調査報告(貯蓄・負債編)2020年(令和2年)平均結果より作成)

上表・下段は、世帯主の年齢が65歳以上、二人以上の無職世帯の貯蓄内容。定期性預金、通貨性預金、生命保険と続きます。投資のリスクを取る必要のない世帯・世代の特徴が出ているのかも知れませんが、若い世代は投資のリスクコントロールのノウハウを身に付けて欲しいものです。加えて、世代間の継承を考えたとき、高齢層の高貯蓄と少子化がどう社会経済に影響するのか、人口オナスとは別な視点から注目される所です。

(了)